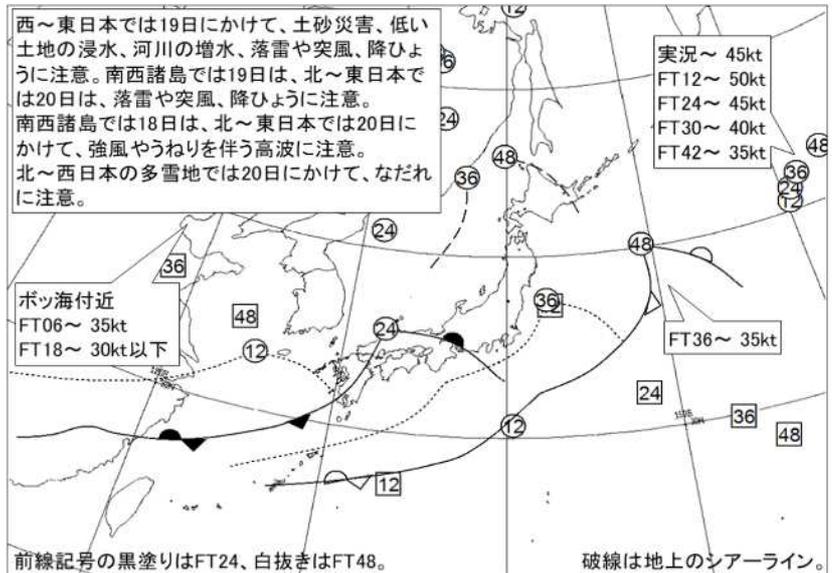


1. 実況上の着目点

- ① 北～東日本太平洋側と南西諸島では、日本のはるか東の低気圧周辺を波源とする周期12秒程度のうねりが入り、波が高い所がある。
- ② 北日本付近と日本の南の高気圧が本州付近を緩やかに覆っている。
- ③ 500hPa 5700m付近の正渦度移流に対応して、前線が華南から東シナ海にのびており、前線上の華中には低気圧があって東北東進。
- ④ 伊豆諸島付近には低気圧が、四国の南には気圧の谷があって、周辺で1時間に10～25ミリの雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、20日にかけて千島の東に北上して、うねりの影響は次第に小さくなる。
- ② 1項②の北日本付近の高気圧は19日にかけて日本の東から南鳥島近海に移動し、日本の南の高気圧は南東に移動して18日夜には不明瞭となる。1項③の前線や低気圧は、19日ははじめにかけてチェジュ島付近から本州付近を東北東進する。前線や低気圧に向かって南から下層暖湿気が流入し、1項④の低気圧や気圧の谷の周辺の暖湿気の影響も加わって大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。西～東日本では19日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。南西諸島では19日は、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ③ 500hPa 5280m付近のトラフに対応して、18日夜には沿海州沖に低気圧が発生し、20日朝にはサハリン付近へ進む。19日は低気圧からのびるシアーラインが北日本を通過して、雨や雪の降る所がある。さらに20日夜には500hPa 5220～5400mのトラフが深まりながら日本海を南東進し、20日の日中から夜にかけて後続の地上シアーラインが北～東日本を通過する。後続のシアーライン近傍では、大気の状態が不安定となる所があり、通過後は、北日本に850hPa -10℃以下の寒気が流入する。北～東日本では20日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、北日本では20日は大雪に留意。
- ④ 2項①の低気圧周辺からのうねりの影響があり、さらに2項②の低気圧や前線の周辺と2項③のシアーラインの周辺で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなる所がある。南西諸島では18日は、北～東日本では20日にかけて、強風やうねりを伴う高波に注意。
- ⑤ 2項②の低気圧や前線及び2項③のシアーラインに向かう下層暖湿気や降水の影響で、北～西日本の多雪地では、雪解けが進む。引き続き20日にかけて、なだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿・沖縄3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超える所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。